

# 令和3年度 第1回 都留市総合教育会議 議事録（概要）

- 1 日時： 令和3年10月14日（木）午前10時00分～11時30分
- 2 場所： 都留市役所2階 市長公室
- 3 出席者： 上野教育長、白戸委員、小俣（洋）委員、三枝委員、小俣（和）委員、市長、総務部長、企画課長、教育次長、学校教育課長、学校教育課長補佐、生涯学習課長補佐、企画課長補佐、企画担当リーダー、企画担当
- 4 議題： (1) 令和4年度 教育関連予算について  
(2) 小中学校適正規模適正配置について  
(3) その他
- 5 報告： (1) セーフコミュニティの認証について  
(2) 都留市SDGs推進方針について  
(3) その他
- 6 主な意見

## 議題(1):令和4年度 教育関連予算について

- ▶資料(1)「令和4年度市政運営の基本的な考え方」について、企画課長より説明
- ▶資料(2)「令和4年度 教育予算方針」について、教育長、教育次長より説明

（総務部長）

資料2（4）「教職員のメンタルヘルス対策の充実」について、職員のハラスメントについて対策を講じる必要があるが具体的な考え方があるか。また現場の意見等はあるか。

（教育次長）

▶人事労務関係業務を専門に対応できる民間事業者と連携し、相談業務に関する契約を構築する予定。それにより個別の相談を行い、メンタルヘルス対策を講じる。また、県との連携等を踏まえ、体制強化を講じる。

（学校教育課長）

▶現場から直接的な意見は現状ないものの、児童生徒の多様化を要因とするこれまで以上の手厚い対応と合わせて、保護者についてもきめ細やかな対応が求められ、教職員の疲弊に対する個別の対策が必要になっている。

（教育長）

山梨県では精神的な問題による休職者が、年間20人程度、全国で5000人程度いて、復帰できず辞めていく現状もある。理由としては、昨今は、子どもの対応の他、保護者への対応もあり、大きな負担となっているようだ。また、教職員の真面目さからか、自分の内に籠ってしまい、ストレスの解消に課題がある。県全体としてのメンタルヘルス研修はこれまでも実施しているが、個別対応までは整備されていなかったため、実施いただけるのはありがたい。

（小俣(和)委員）

教育系の大学として知名度がある都留文科大学との連携については、財政健全化を勘案しながら、今後とも充実を図っていただきたい。

（総務部長）

今年度から来年度にかけて都留文科大学新棟（旧南都留合同庁舎）の改修を進めて

おり、隣接する生涯活躍のまちの複合施設や来年度の新規事業である市民大学事業と連携を図りながら、魅力の発信していきたい。

(三枝委員)

生涯学習課で次年度実施を行う市民大学について、20～50代の都留市を引っ張っていく世代の参画が大事と思う。市内高等教育機関と密に連携を行い、様々な教育プログラムを提供する形で充実化を図っていただきたい。

(市長)

市民大学事業は、今年度・来年度改修を進める都留文科大学新棟のスペースを提供する等、ハードとの連携も想定しているか。

(教育次長)

▶地域交流の場を想定した施設を想定しているため、そうした整備との連携のもと、実施をしていくことを想定している。

➤資料(1)、資料(2)の内容のとおり、予算方針を決定。

報告(1):セーフコミュニティの認証について

▶資料(3)「セーフコミュニティの認証について」について、企画課長より説明

意見なし。

報告(2):都留市SDGs推進方針について

▶資料(4)「都留市SDGs推進方針」について、企画課長より説明

意見なし。

その他

特になし。